

新潟県における初記録種ホソバイヌタデを発見

千葉 道徳 ※

※オリザ植物リサーチ(千葉県我孫子市)

新潟県長岡市狐興野地先の信濃川河川敷でホソバイヌタデ *Persicaria erectominor* var. *trigonocarpa* (タデ科) を確認したので報告する。

ホソバイヌタデは、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物、植物 I」(環境庁、2000)で絶滅危惧 I B 類 (EN) に指定されていたが、昨年 (2007年) 環境省から公表されたレッドリストにおいては準絶滅危惧 (NT) にランクが変更されている。

本種は、これまで新潟県では記録されていなかった。新潟の近隣県においても山形県、福島県、富山県では記録がなく、長野県においては25年前に報告されているものの (横内、1983)、その後は確認されていない。全国的にも稀な植物であるといえる。

この種を採集した場所は、信濃川にかかる与板橋の下流右岸のヤナギ低木林の中で、水際から近く、カナムグラが林床に多くみられる場所であった。信濃川下流域の河川敷では、ヤナギ林床や水路、ワンドの泥だまりなどに地を這うように生えている「イヌタデ」をしばしば見かける。これらは、普通種のイヌタデと比較すると、やや草丈が高く、泥に接した部分では節からの発根がみられ、花の色もイヌタデよりやや淡く、ピンクがかったように見え、一見してイヌタデとは別ではないかと疑われるものが多い。私はかつて、これらの標本をいくつか持ち帰り、千葉県の江戸川河川敷に生育しているホソバイヌタデと比較してみたことがあるが、全体的な形態は非常に良く似ているものの、ホソバイヌタデの特徴の一つである黄色く大きな腺点が見当たらないことで、これはイヌタデの個体変異の内だと思っていた。しかし、2004年10月に明らかな腺点のある標本を採集したことで、本種を正式に確認することができた。

本種は今までイヌタデと混同され、誤認されていた可能性が高く、今後調査を進めて、新潟県内の分布状況を明らかにする必要があるものと思われる。なお、この同定に用いた標本は積雪地域植物研究所に寄贈した。

本種の同定・発表にあたりご指導いただいた石澤進先生及び藤塚治義氏に感謝する。



信濃川河川敷のホソバイヌタデ 撮影日：2004年10月8日

参考文献：

- 環境庁編 (2000) 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物、植物 I」, (財)自然環境研究センター
 環境省 (2007) 植物のレッドリスト (平成19年8月3日環境省報道発表資料、別添資料5)
 横内 齋 (1983) 「信濃植物誌」, 銀河書房